

PENTAX[®]

IL X

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびはペンタックスL Xをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

L Xは、IDMシステム[®]による高精度な露出や、広い撮影条件など多くの特徴を持つカメラです。

*IDMシステム…Integrated Direct Metering システム

この説明書の写真は、標準仕様のL Xを使用しています。

LED=発光ダイオード

「林檎の秘密」

すぐに役立つ写真の基礎知識



露出の仕組みや光の測り方、ピントの合わせ方など写真の基礎を豊富なイラストと作例でわかりやすく解説しています。

お求めは、ペンタックスサービス窓口・ペンタックスファミリーまたは、最寄りのカメラ店で。



カメラを安全にお使いいただくために

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、2 ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

⊘ は、禁止事項を表わすマークです。

⚠ は、注意を促すためのマークです。

⚠ 警告

- ❌ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- ❌ 望遠レンズを付けた状態で、長時間太陽を見ないでください。目を痛めることがあります。特にレンズ単体では、失明の原因になりますのでご注意ください。
- ⚠ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- ❌ 電池をショートさせたり、火の中に入れてください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ❌ 電池は、+の向きを逆にしないでください。向きを間違えると、液漏れ、発熱、破裂の恐れがあります。
- ⚠ 万一、カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

目次

カメラを安全にお使いいただくために	1	絞り込み[プレビュー]・ミラーアップ	36
各部の名称	4	多重露出	38
撮影の手順	6	ペンタックス専用オートストロボの使い方	40
電池の入れ方	8	IDMシステムとTTLオートストロボ	41
ケース・ファスナーストラップ・グリップの使い方	10	一般のストロボ撮影・フラッシュバルブ撮影	43
レンズの取り付け・交換	12	赤外線指標の使い方	44
巻上げレバー	14	その他の操作	45
シャッターボタン・測光ボタン・シャッターボタン		フォーカシングスクリーンの交換	46
ロックレバー・シャッタースピードダイヤル	15	フォーカシングスクリーンの種類	47
フィルムの入れ方	16	フォーカシングスクリーン適合表	48
フィルム感度の合わせ方	18	ファインダー着脱	50
メモホルダーの使い方	18	視度の合わせ方	51
ファインダー内表示	20	専用アクセサリ：交換ファインダー	52
ピントの合わせ方	21	ダイヤルデータL X	54
オート撮影の方法	22	データL X	54
マニュアル撮影の方法	24	ワインダーL X	55
露出補正	26	モータードライブL X	56
測光範囲	28	キャップ類	58
巻戻し	30	ねじマウントのタクマーレンズの使い方	59
カメラの構え方	31	仕様	60
セルフタイマー・三脚の使い方	32	カメラ取扱い上の注意・アフターサービス	62
バルブ・タイムの使い方	33	お問い合わせは次の各サービス窓口へ	64
被写界深度	34		

各部の名称



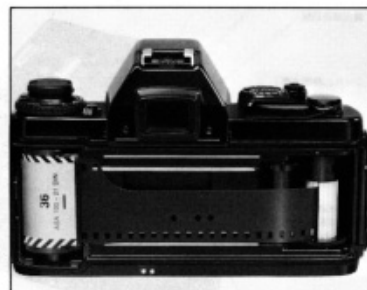
1 電池室に電池を入れます。



2 裏ぶたを開けます。



3 フィルムを入れ裏ぶたを閉じます。



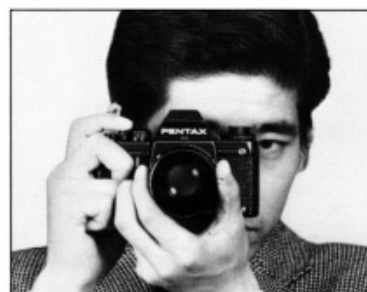
7 絞りをセットします。



8 ピントを合わせます。



9 シャッターをきります。



6

4 巻上げレバーを巻いて、カウンターを1にします。



5 フィルム感度を合わせ、露出補正1Xにします。



6 シャッタースピードダイヤルをAUTO-MATICにします。



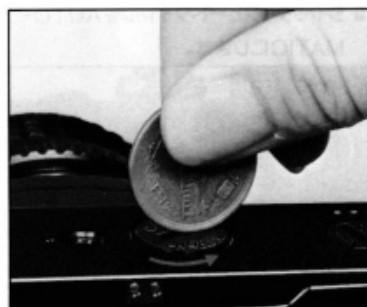
10 フィルムが終ったら、Rボタンを押します。



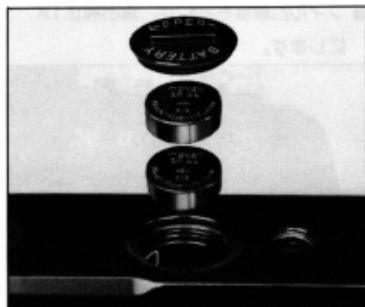
11 フィルムを巻戻して、取出します。



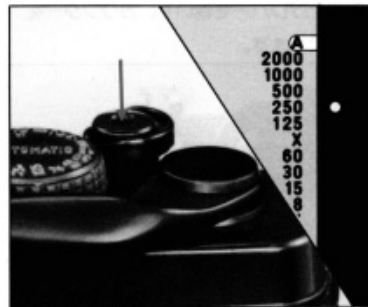
フィルムを入れないでオートでシャッターをきると、LEDの指示よりも長いシャッタースピードになります。LXのオートシャッターはフィルム面の光量も測る方式ですから、フィルムを入れると指示通りのスピードになります。シャッターが閉じないときは、シャッターダイヤルのオートロックピンを押しながら2000(マニュアル)に合わせると閉じます。



1. 電池室キャップを開けます。



2. 電池を2個共、「+」のマークが見える方向に入れ、ふたを確実に閉じます。



3. 電池のチェックをします。

電池は入れる前に両面を乾いた布で、良く拭いてください。

電池は次の種類のものが使用できます。

JIS LR44形 アルカリマンガン電池 2個

JIS SR44形〔G13形〕銀電池 2個

電池のチェック

シャッターボタンを軽く押し、ファインダー内のLEDがどれか点灯することを確認してください。同じLEDが点滅するときは電池の容量が少なくなっています。早めに電池を交換してください。

点灯しないときは電池の容量がないか、入れ方が正しくないときです。

タイマースイッチ

露出計のスイッチは、シャッターボタンを軽く押すとONになり、約25秒で自動的にOFFになります。

電池消耗の警告

LXはシャッタースピードがマニュアルの2000～XとBは電池がなくても使用できます。〔露出計は作動しません。〕

これ以外のAUTOMATIC、およびマニュアル60～4Sは電池がないときや容量が少ないときにシャッターをきくとミラーが上がったままになり、警告を発します。解除するときはシャッタースピードダイヤルを2000～Xか、Bに合わせるとシャッターがきれてミラーが復元します。

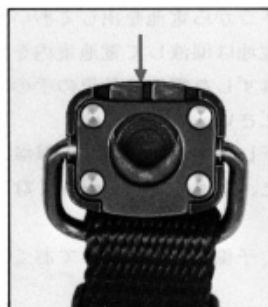
このようなときは電池の確認をし、新しい電池を入れるか、2000～X、Bで使用します。

電池について

- 電池を交換するときは全部を一度に、同一メーカー、同一種類の電池を入れてください。新しい電池と古い電池を混ぜて使うことはしないでください。
- カメラの電池の寿命は、アルカリマンガン電池で約6ヵ月、銀電池で約1年です。

- 長い間使わないときはカメラから電池を出しておいてください。古くなった電池は漏液して電池室内を傷めることがあります。はずした電池は幼児の手の届かない所に保管してください。
- 寒冷地では電池性能が低下しますから、電池を保温してご使用ください。また、電池の寿命も短くなります。
- 旅行や野外撮影などには、予備電池を用意しておくとう便利です。
- カメラバックなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。シャッターボタンをロックにしておくとう安全です。
- カメラについている電池は、工場出荷時のサンプル電池です。電池の自然放電のため容量が少なくなっている場合があります。





ファスナーの矢印の板を、
コイン等で押します。



ファスナーを、カメラの吊
り金具に取り付け、矢印の
板をコイン等で押します。



写真のようにストラップをカメラに取り付けます。横
ぶり、縦ぶりどちらにも使えます。

ストラップの長さは、自由に調整できます。調整後左
右のストラップの先端部を切ったときは、ライターな
どで焼いて先端部を固めることができます。

●現在のストラップは、写真と形状が異なりますが、
使い方は同じです。

10



ケースからカメラをはずすときは、下部の取り付けね
じをゆるめマジックテープをはがして取出します。前
ぶたをはずすときは、半回転させると写真のように金
具がはずせます。

アクセサリとしてグリップA・Bが用意されていま
す〔別売〕。グリップAは手に合わせて加工ができます。
グリップBはそのまま使用できます。



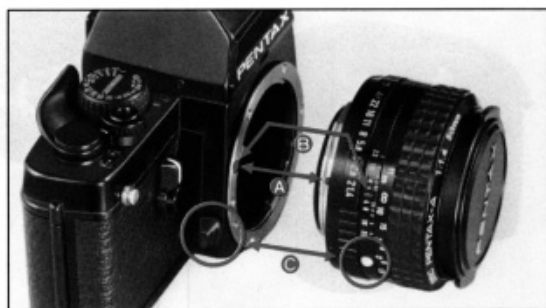
グリップA



グリップB



1. ボディーマウントカバー、標準レンズマウントカバーははずします。



2. ボディーとレンズの赤点指標(A・B)を合わせて取り付けます。レンズを右に回すとカチッと音がしてロックされます。(C)の合わせ方は暗い所で手ざわりで行なうときなどにご利用ください。

●別売りアクセサリーとして、ボディーキャップK、レンズマウントキャップKが用意されております。

12



3. レンズキャップは両側の矢印部分を内側に押して着脱します。



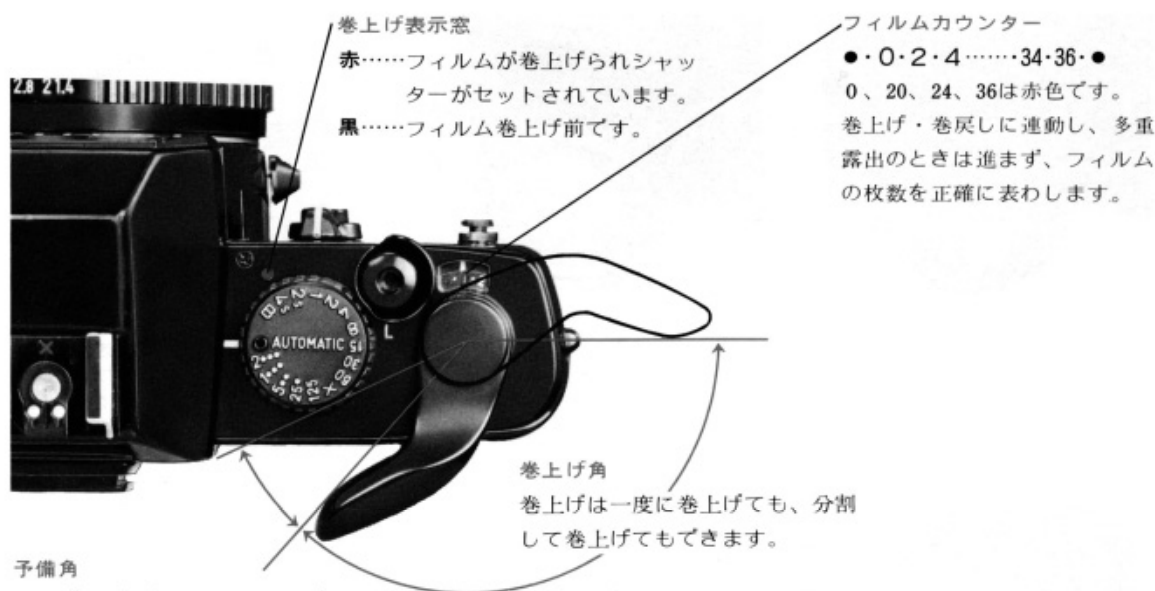
4. レンズをはずすときはレンズロックレバーをボディー側に押しながら、レンズを左に回すとはずせます。



5. はずしたレンズにはゴミや汚れが付かないように、レンズキャップやレンズマウントカバーを取りつけてください。はずしたレンズは、写真のように置くと安定よくなります。



SMCペンタックスAレンズを組合わせて使用するときは、レンズの絞りA(オート)以外の各絞り値側(F1.4~22など)でご使用ください。絞りをAにロックして使うと、最小絞りのF値になります。
※絞りをA(オート)ロックから、各絞り値側にするときは、左写真の矢印の絞りオートロックボタンを押しながら、絞り値側へ回します。



予備角

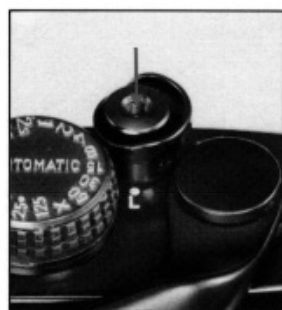
巻上げレバーを引出し、巻上げ後レバーから手を放しても写真の位置で止まり、次の巻上げがしやすくなります。使わないときは押し込んでください。

巻上げ角

巻上げは一度に巻上げても、分割して巻上げてもできます。

フィルムの終りで巻上げレバーが途中で止まることがあります。このときは無理に巻上げないで、巻戻しを行なってください。

シャッターボタン・測光ボタン・シャッターボタンロックレバー・シャッタースピードダイヤル



シャッターボタンを軽く押すと、露出計のスイッチがONになり、さらに押すとシャッターがきれます。露出計は約25秒で自動的にOFFになります。補正ダイヤルロック〔測光ボタン〕を押しても、露出計のスイッチが入ります。ワインダーLXやモータードライブLXを使用するときにご利用ください。

シャッターボタン外側のシャッターボタンロックレバーを矢印の方向に回し、Lの指標に合わせるとシャッターボタンがロックされます。カメラを肩から下げたり、バッグに入れるときは、シャッターボタンをロックしておくとう不用意にシャッターがきれたり、露出計のスイッチが入るのを防止できます。

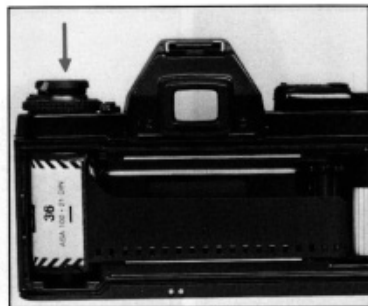
シャッタースピードダイヤルはAUTOMATIC〔オート〕の位置で自動的にロックされます。マニュアルへ回すときは、オートロックピンを押しながら回してください。

シャッタースピードダイヤルの数字は、2●●●〔2000〕は $\frac{1}{2000}$ 秒、25●〔250〕は $\frac{1}{250}$ 秒、60は $\frac{1}{60}$ 秒、1は1秒、4Sは4秒のようになっています。Xはストロボ同調速度〔 $\frac{1}{90}$ 秒〕、Bはバルブを表わします。

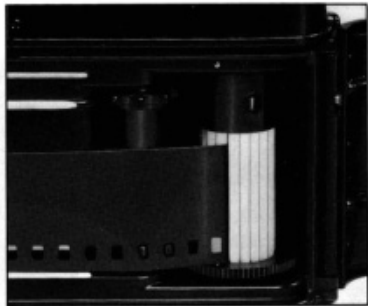
フィルムの入れ方



1. 巻戻しノブを上にとまり、さらに引くと裏ぶたが開きます。



2. パトローネを写真のように入れ、巻戻しノブを元のように押し込みます。ノブが入りきらないときはノブを回しながら押し込みます。

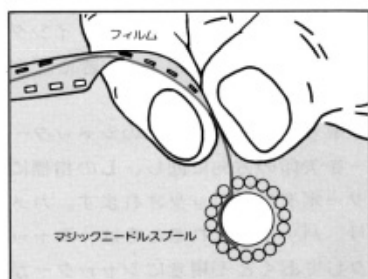


3. フィルムを少し引き出し、写真のようにスプールのすき間に十分差し込みます。すき間はどこでもかまいませんが、下図の方角へ差し込みます。

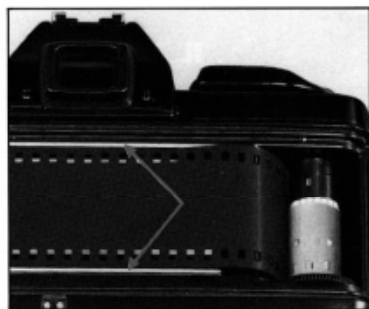
フィルムは市販の35mmパトローネ入りを使用します。フィルムの出し入れは直射日光を避け、体の陰などで行なってください。

フィルムを入れるときは、高速シャッターがきれるように、シャッターダイヤルを2000に合わせます。

フィルムをスプールのすき間に差し込むときは、白いマジックニードルの下にすべり込ませるようにします。



16



4. 巻上げレバーでフィルムを少し巻き、フィルムを写真の位置まで送ります。フィルムが矢印の外側ガイドレールの間に入るようにします。



5. 巻戻しノブを写真のように軽く止まるまで回し、フィルムのたるみを取り、裏ぶたを確実に閉じます。



6. フィルムカウンターが0枚目になるまで巻上げとシャッターをきる操作を繰り返します。次の1枚目から撮影ができます。シャッターダイヤルをAUTOMATICに戻しておきます。(オートで使うとき)

フィルムを巻上げるときに巻戻しノブが回ればフィルムは正しく送られています。もし回らないときはフィルムを正しく入れ直してください。

下部巻上げ軸・巻戻しのキャップは、ワインダー・モータードライブ使用時以外ははずさないでください。

フィルム感度の合わせ方・メモホルダーの使い方

フィルム感度は適正露出のための大切な値です。必ず合わせてください。感度はフィルムの箱に ISO 100 のように表示されています。

ISOはASAと同じフィルム感度表示です。

右写真のようにフィルム感度ロックを押しながら感度を●指標に合わせます。フィルム感度ロックを放し、ダイヤルを軽く左右に回して、セットの確認をします。フィルム感度目盛の数字の間の目盛は表のようになっています。目盛の中間は使用できません。



メモホルダー

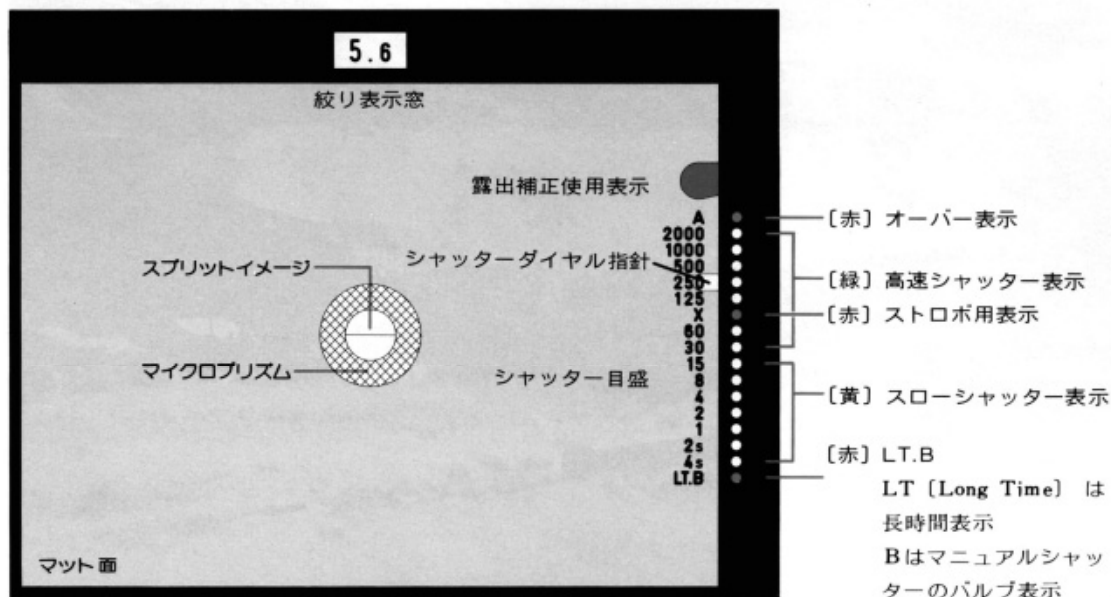
裏ふたのメモホルダーに、使用フィルムの箱のふたを切取って入れ、メモとしてご利用ください。また、メモ用紙を入れておいて、データの記録にもご利用いただけます。



ファインダー内表示

ファインダー内に3色のLEDで露出計やストロボの情報が表示されます。またシャッターダイヤルの位置、露出補正の警告も表示されます。絞り表示窓付のファインダーではレンズの絞り値も見ることができます。

サービスサイズのカラードリフトでは、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。



20

ピントの合わせ方

ファインダー画像を見ながら、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

ピントはスプリットイメージ、マイクロプリズム、マット面のどこでも合わせられます。

スプリットイメージでは上下の像が一致するように合わせます。

マイクロプリズムではギザギザの像がはっきりした像になるように合わせます。

マット面ではボケている像がはっきり見えるようにしたとき、ピントが合ったことになります。

レンズがF5.6より暗いときは、スプリットイメージとマイクロプリズムが使えなくなりますので、マット面で合わせるか、交換フォーカシングスクリーンをご利用ください。

視度の調節

近視・遠視・老眼の方でファインダーがはっきり見えないときは、ファインダーの視度を調節します。LXは標準ファインダーで-1.5～0ディオプリーの調節ができます。これ以外の視度は交換ファインダーFA-1Wか視度調整レンズMを使用します。

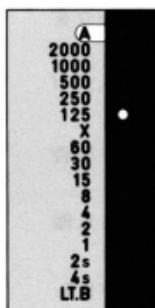
調節の方法は51ページをごらんください。

ピントが合っていない



ピントが合っている





昼間の屋外〔晴〕	F5.6か 8
昼間の屋外〔曇〕	F2.8か 4
室内	F1.4か1.7または 2

(ASA(ISO)100の場合)

シャッタースピードダイヤルを **AUTOMATIC** に合わせます。シャッターボタンを軽く押すとファインダー内にLEDでシャッタースピードが表わされます。

LXは絞り優先オート方式ですから絞りを先に決めると自動的にシャッタースピードが決まります。また、絞りを動かし、希望するシャッタースピードに合わせることでもあります。

一般には絞りを右の表のように合わせておけば充分です。動きの速い被写体を写すときは、速いシャッタースピードに合わせます。

LEDが2つ交互に点灯するときは中間のスピードを表わします。

Xの位置のLEDは、専用ストロボを使うときのみ点灯します。

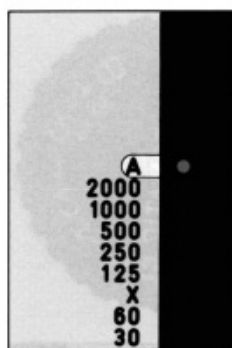
レンズキャップをしたとき、あるいはLTBの位置に赤LEDが点灯しているときにシャッターをきると、長時間露出になるためミラーが戻らないことがあります。このときはキャップをはずし絞りを開くか、シャッタースピードダイヤルをマニュアルに切換えてください。暗い所で撮影するときは、ファインダー内LEDの点灯を確認してからシャッターをきってください。急激にきると、露出が不安定になることがあります。

22

A〔赤〕

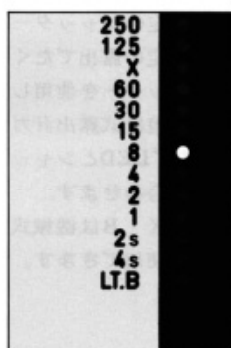
露出オーバー

被写体が明るいため絞りリングを回し、絞り目盛を数字の大きい方〔11や16など〕に合わせます。



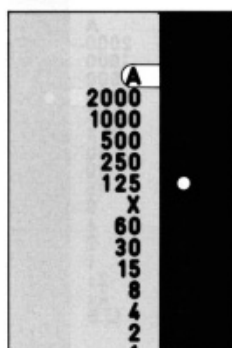
15～4 S〔黄〕

スローシャッターです。カメラぶれしないように、三脚やストロボなどを使用するか、絞りを変えて速いシャッタースピードで撮影します。



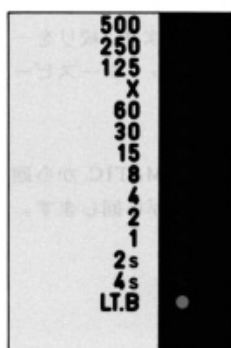
2000～30〔緑〕

普通に撮影できます。



LT.B〔赤〕長時間露出

被写体が暗いため4秒より長い露出時間になりますから三脚を使用してください。長時間露出は125秒まで可能です。〔常温・常湿。測光範囲のページをごらんください。〕絞り目盛を小さい方〔1.4や2など〕に合わせると露出時間が短くなります。

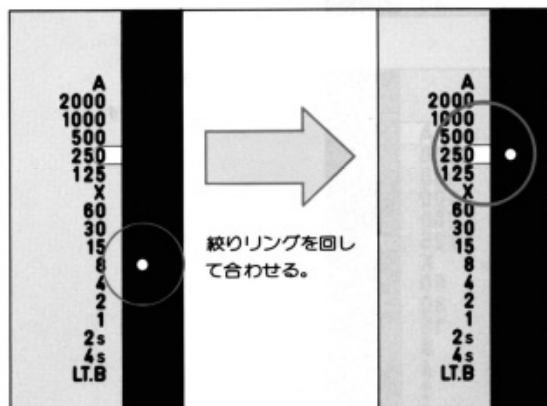
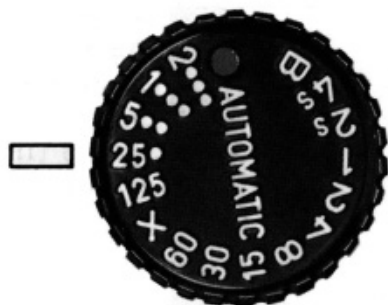


明るさがめまぐるしく変わる情景を一定のシャッタースピードで写したいときや、複写を一定の露出でたくさんするときなどは、マニュアルシャッターを使用します。マニュアルシャッターのときは追針式露出計カメラとして使います。ファインダー内でLEDとシャッターダイヤル指針を一致させて露出を合わせます。マニュアルシャッタースピード2000～X・Bは機械式シャッターですから、電池がなくても使用できます。

シャッタースピードを先に決める場合

シャッタースピードダイヤルを希望のシャッタースピードに合わせます。シャッターボタンを軽く押し、絞りを覚えてLEDを指針の位置に合わせます。絞りを一ぱいに回しても一致しないときは、シャッタースピードを合わせ直します。

シャッタースピードダイヤルをAUTOMATICから回すときは、オートロックピンを押しながら回します。



24

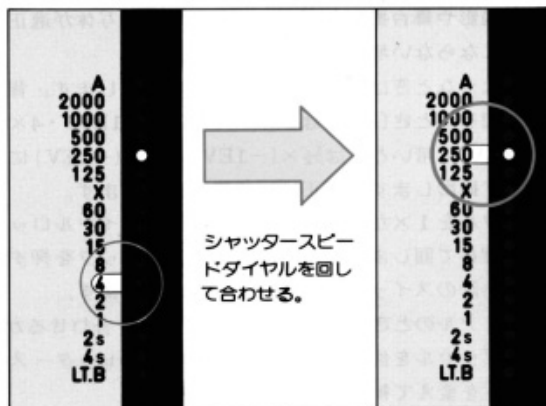
絞りを先に決める場合

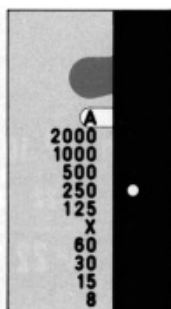
絞りを希望の値に合わせます。シャッターボタンを軽く押し、ファインダー内のLEDのついている位置に指針がくるように、シャッタースピードダイヤルを回します。

オーバー、アンダー[LT.Bの位置]が点灯しているときは絞りを覚えて露出を合わせます。



LXはミラーにハーフミラーを使っているため、一般の偏光フィルターを使うと、偏光角によってはシャッタースピード表示がわずかに変わることがありますが、オートのスPEEDには影響がありません。アクセサリの方偏光フィルターを使うと、このような影響がありません。





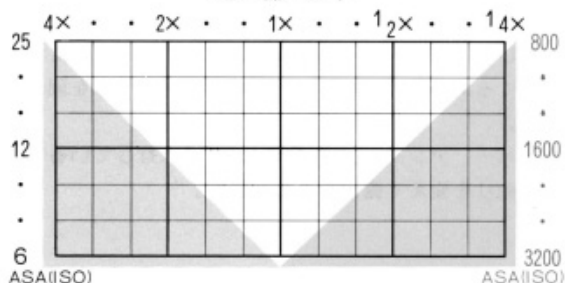
逆光撮影や舞台撮影などでは、ねらった被写体が適正露出にならない場合があります。

このようなときは露出補正ダイヤルで補正します。背景が明るいとき〔逆光〕はダイヤルを $2\times(+1EV)$ ・ $4\times(+2EV)$ に暗いときは $\frac{1}{2}\times(-1EV)$ ・ $\frac{1}{4}\times(-2EV)$ に回して撮影します。補正は $\frac{1}{2}$ 段階毎に行えます。

ダイヤルを $1\times$ から他へ回すときは補正ダイヤルロックを押して回します。なお補正ダイヤルロックを押すと露出計のスイッチは約25秒間ONになります。

マニュアルのときは補正後のLEDで露出を合わせるか、補正ダイヤルを使わないで、絞りまたはシャッタースピードを変えて補正します。

露出補正倍率



露出補正ダイヤルとフィルム感度目盛について
フィルム感度目盛の両端では、露出補正ダイヤルは表の $\frac{1}{4}$ の部分へは回せません。

露出補正使用中はファインダー内に警告マークが出ます。使用後は忘れないうちに $1\times$ に戻してください。

26

背景が明るいとき



背景が暗いとき



自動露出測光範囲

自動露出制御時の測光範囲はASA(ISO)100で、F1.2・125秒～F22・ $\frac{1}{2000}$ 秒〔EV -6.5～EV 20〕です〔常温常湿〕。フィルム感度を変えると測光範囲が変わります。図のグレーの部分〔保証しない範囲〕がフィルム感度の変化に従い、右方向に動くことになります。

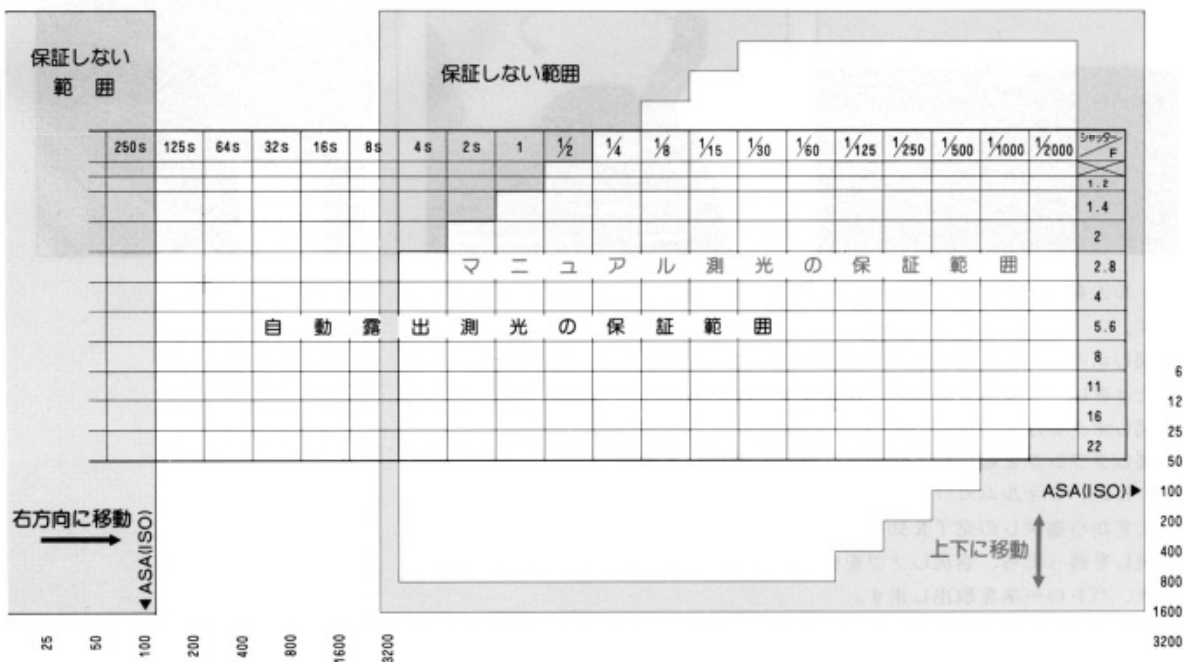
例えば、ASA(ISO)200ではグレーの部分が1目盛右に移動し、64秒までが保証範囲となります。

マニュアル測光範囲

ASA(ISO)100・50mm F1.4 標準レンズを用いたときの測光範囲は、EV1〔F1.4・1秒、F2・2秒〕～EV19〔F22・ $\frac{1}{1000}$ 秒、F16・ $\frac{1}{2000}$ 秒〕です。

フィルム感度を変えると測光範囲が変わります。図の赤い枠〔保証しない範囲〕がフィルム感度の変化に従い、上下方向に動くことになります。枠の中が保証範囲です。例えばASA(ISO)50では赤い枠が1目盛上に移動し、EV0〔F1.4・2秒、F2・4秒〕～EV18〔F22・ $\frac{1}{500}$ 秒、F16・ $\frac{1}{1000}$ 秒〕までが保証範囲になります。

測光範囲表



巻戻し



フィルムを終りまで撮影したら、パトローネに巻戻します。

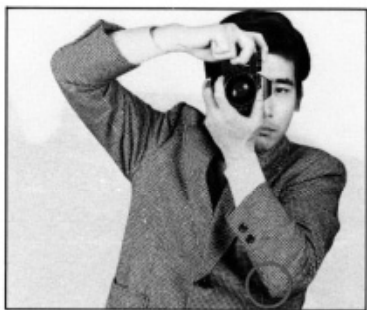
巻戻しボタンを押し込みます。[巻上げ途中で終りになったときはフィルムを引張ったまま止まっているため、巻戻しボタンが重くなります。]

巻戻しクラंकを起こし矢印の方へ回して巻戻します。このとき、フィルムカウンターは巻戻しに連動して戻りますから巻戻しの完了を知ることができます。

巻戻しを終ったら、巻戻しノブを引き上げて裏ぶたを開き、パトローネを取出します。

30

カメラの構え方



カメラぶれのない写真を撮るためにはカメラの構え方が大切です。フィルムを入れないで操作し、よく慣れてください。

基本的には写真のように3通りの構え方があります。いずれの構え方でも、カメラを顔や手などで良く固定します。

シャッターボタンは静かに押します。強く押すとカメラがぶれやすくなります。

からだに力を入れないで安定した姿勢を取ります。写真の○の部分はからだにつけるようにしてください。木や建物などを利用してからだやカメラを安定させるのも良い方法です。

スローシャッターや望遠レンズを使用するときは、三脚とケーブルレリーズを使用するようにしてください。

セルフタイマー・三脚の使い方



セルフタイマー

作動時間はレバーの角度により約4秒から約10秒までセットできます。

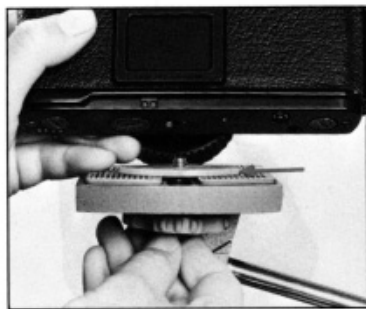
ロックボタンを押しながら写真のようにレバーをセットします。

シャッターボタンを押すとスタートします。

セットの解除はレバーを元の位置に戻すと音がして解除されます。〔スタート後は解除できません。〕

注意

ケーブルリリースをロックにして使うと、セルフタイマーはスタートしますが、シャッターはきれないことがありますからご注意ください。



三脚

三脚を使うときにレンズの一部が雲台に当り回転部が回せないときは、付属の三脚用補助板をご使用ください。スローシャッターでカメラぶれの恐れがあるときは、三脚とケーブルリリースの使用をおすすめします。

32

バルブ・タイムの使い方



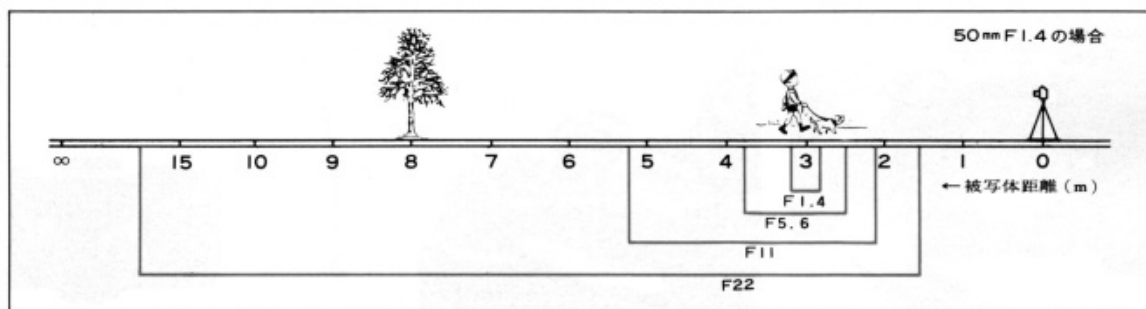
マニュアルシャッターの4秒より長い露出は、バルブまたはタイムを使います。

バルブはシャッターダイヤルをBに合わせ、シャッターボタンを押している間シャッターが開いています。バルブは機械シャッターですから電池がなくても作動します。

バルブでシャッターボタンを押したままシャッターボタンロックレバーをロックに合わせると、指を放してもシャッターが開いたままになりタイム露出ができます。シャッターを閉じるときはロックレバーを元に戻します。

タイム露出はペンタックスケーブルリリース30、50型でも簡単にできます。

バルブやタイムの露出中はLEDが点灯しています。天体写真など長時間の露出を行なうときは、電池を取り出しておくと電池の消耗を防げます。



被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があり、この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度は絞り込むほど〔小絞り〕、焦点距離は短いレンズほど、また、被写体が遠くなるほど深くなります。絞りを変えることによりピントの合う範囲〔奥行〕が上図のように変わりますから、写真の効果を变えることができます。

右ページの写真〔F1.4、F22〕のように、レンズの被写界深度目盛によって、ピントの合う範囲をある程度知ることができます。

34



絞り F1.4 (2.9~3.1m)



絞り F22 (1.7~16.8m)





絞り込み〔レビュー〕

自動絞りのレンズでは、ファインダーは絞り値に関係なく開放の像になっています。

セルフタイマーレバーをレンズ側に倒すとレンズはセットした絞りになり、ファインダーで被写界深度を確認できます。レバーを放すと開放に戻ります。



ミラーアップ

セルフロックボタンを押してレバーをレンズ側に倒すとミラーが上り、絞りもセット値まで絞られます。戻すときはセルフロックボタンを押します。音やショックを少なくして撮影できます。

IDMシステムのLXは、絞り込みやミラーアップのままオート撮影を行なうことができます。このときファインダーの指示は露出に関係ありません。



巻戻しボタンを押した後、巻上げレバーを巻くとフィルムは進まずシャッターだけがセットされます。このままシャッターをきれば同じコマに多重露出されます。多重露出のときは、フィルムが約0.5mmずれることがあります。

普通の多重露出

- ①一回目の撮影
 - ②巻戻しボタンを押す
 - ③巻上げる
 - ④二回目の撮影
- ②③④を繰り返すと何回でも露出できます。フィルムカウンターは進みません。巻戻しボタンはシャッターをきると復元します。

数枚前のコマに多重露出を行なうとき

例えば、フィルムカウンターが15枚目のとき10枚目のコマに多重露出を行なうとします。

- ①巻戻しボタンを押す。
- ②フィルムカウンターを見ながら9枚目まで巻戻す。
- ③レンズキャップをして一度巻上げ、マニュアル高速でシャッターをきる。
- ④巻戻しノブを時計方向に軽く止まるまで回し、フィルムのたるみをとります。
- ⑤次に、巻戻しノブを軽く押えながら巻上げると、フィルムカウンターは10枚目になり、2回目の露出ができます。
- ⑥後のコマも多重露出するときはそのまま続け、しないときは③の方法で15枚目まで空写しをします。

この方法で夜景と昼景の多重露出などを、まとめて行なうことができます。

巻戻しのとき、フィルムをスプールからはずすと枚数が合わなくなります。



ペンタックス専用オートストロボの使い方

LXとペンタックスのオートストロボを組み合わせ、ストロボをオートまたはMSにセットすると、オートシャッターのまま表のように便利な使い方ができます。マニュアルシャッターのときはXまたはBで使用します。

シンクロコードを使うときはXシンクロソケットに接続してください。

オートストロボの種類により表のような機能がありますから、各ストロボの使用説明書をごらんください。

☆印は旧製品

LXの機能	AF400T	AF280T	AF200T	AF080C	☆AF140	☆AF200S	☆AF160
ストロボの充電完了でファインダー内XのLEDが点灯します。ファインダーを見ながらパイロットランプの点灯を確認できます。	○	○	○	○	○	○	○
オートシャッターで1/30~4Sのスローシャッターでも、ストロボ充電完了により自動的にXのシャッタースピードでストロボ撮影ができます。(注)	○	○	○	○	○	○	○
カメラがオートシャッターで1/2000~1/60のときは自動的にストロボの発光を防止し、ストロボをONのままオートシャッターで撮影できます。(注)	○	○	○	○	—	○	—
オートストロボが作動したことを、ファインダー内のXのLED点滅で知らせます。(ストロボオート時)	○	○	○	○	—	—	—
撮影中のフィルム面の光量でストロボのオートが作動します。(TTLオートストロボ時)	○	○	○	○	—	—	—

〔注1〕 シャッタースピード表示のLEDは段階表示のため、 $\frac{1}{60}$ の表示でも一部発光する部分が含まれます。

スピード	30	60	125
LED	○	○	○
表示の範囲	-----		
ストロボ発光	発光	発光防止	

〔注2〕 画面の一部に強い光源があるときなど、特殊な被写体では発光防止のスピード範囲が移動することがあります。これはシャッター作動中のフィルム面の光量でストロボの発光防止を制御し、適正露出を得るしくみになっているためです。

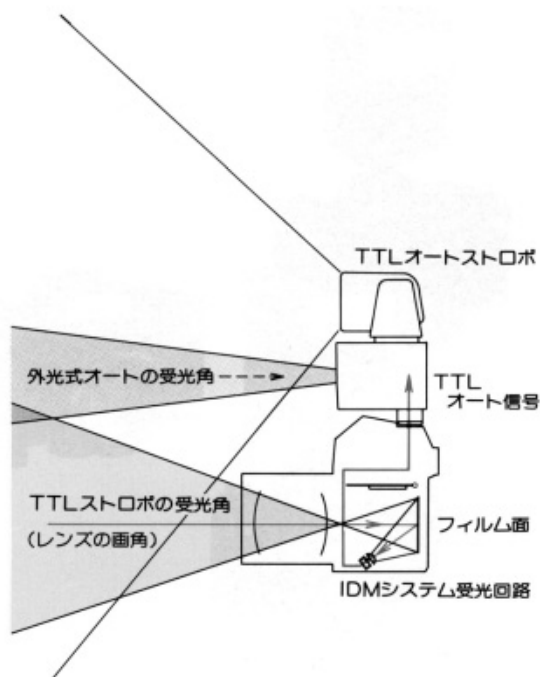
40

IDMシステムとTTLオートストロボ

普通のオートストロボでは受光部がカメラの外〔ストロボ本体〕にあるのに対して、IDMシステムではカメラの測光回路がストロボまで制御します。実際の撮影中のフィルム面を測光するため、より高度なオートストロボ撮影ができます。

TTLオートストロボ撮影の特長

- 1、レンズの絞り値が自由に選べ、オート撮影範囲が広がります。例えば、AF280T、ASA(ISO)100で0.25m〔F22〕~23m〔F1.2〕の撮影が可能です。
- 2、レンズを交換しても正確な露出が得られます。
- 3、フィルター使用時の補正が不要です。
- 4、カメラの露出補正ダイヤルにより、オート調光も補正されます。





42

一般のストロボ撮影・フラッシュバルブ撮影

同調範囲

シャッター速度		1/2000	1/1000	1/500	1/125	X	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4	1/2	1	2S	4S	B	シンクロ ターミナル
ストロボ	オートシャッター																X
	マニュアルシャッター																
FP級バルブ																	FP
FP級・M級・MF級バルブ																	X

40ページ以外のストロボ

ストロボをカメラに取りつけます。ホットシュー式のものはそのまま使えます。コード式の場合は、シンクロコードをXシンクロソケットに差し込みます。シャッタースピードはマニュアルのX~4S・B、オート1/30~4S、LTで同調します。

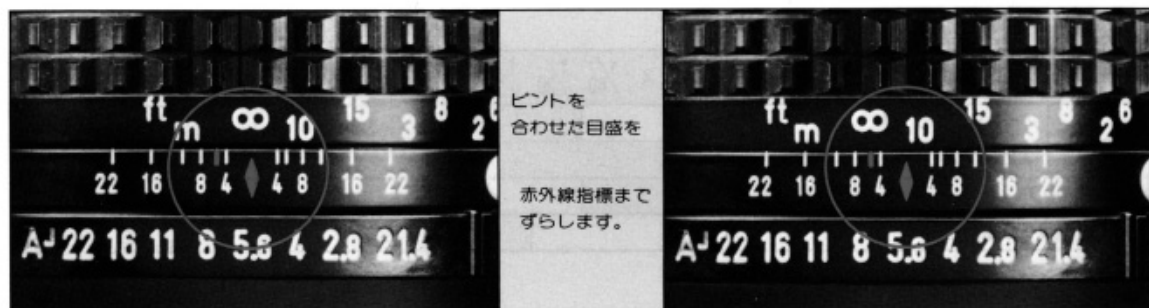
フラッシュバルブ

発光器をカメラに取りつけます。シンクロソケットやシャッタースピードを、使用するバルブに合わせて表から選んでください。

露出はストロボやフラッシュバルブの説明書をご覧ください。

注意

- 他社製ストロボのうち、連動機構をもつ専用型や、特殊ストロボ等では、誤動作を起こしたりカメラの電子機構を傷めたりすることがあります。
- 専用ストロボの電源スイッチをONのままにしておくと、充電完了と同時にカメラ側の露出計の電源タイマースwitchはONをつづけ、電池を消耗します。ストロボを使わないときはかならず電源スイッチをOFFにしてください。



赤外線指標の使い方

赤外線フィルムと R 2 や O 2 のフィルターを使用して赤外線写真を撮るときは、可視光と赤外光のピント位置が異なるため、ピント補正が必要です。

左上写真のようにピントを合わせた距離目盛を、距離リングを回して右上写真のように赤外線指標〔赤線〕に合わせます。

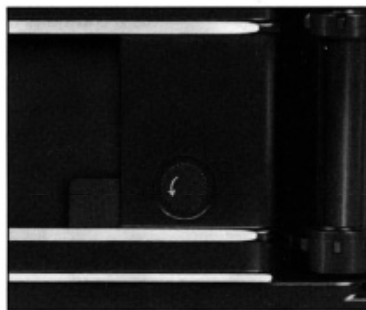
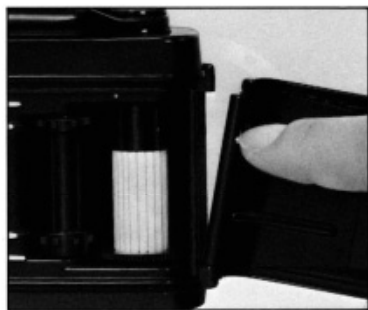
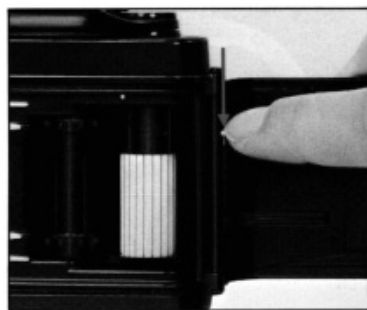
写真は距離が∞のときです。

露出はフィルムの説明書をごらんください。

赤外カラーフィルムは補正の必要はありません。

ズームレンズはレンズの説明書をごらんください。

その他の操作



裏ぶたのはずし方

データ写し込み装置や、長尺マガジンを使用するときは裏ぶたをはずします。

裏ぶたを開き、矢印の着脱ピンを下方に押しながら裏ぶたを少し外側に傾けるとはずせます。

取りつけるときは先に下側の軸をカメラに取りつけ、着脱ピンを下に押しながら上の軸を合わせて着脱ピンを放します。

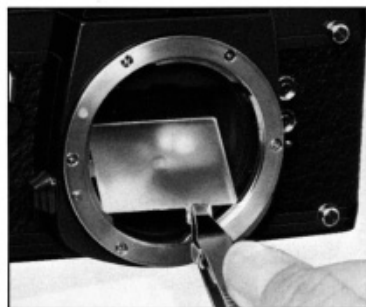
下部巻上げ軸キャップ・下部巻戻しキャップのはずし方
コイン等でキャップを左に回すとはずれます。

モータードライブやワインダーを取りつけるとき以外はキャップをしてご利用ください。

遮光板の出し方

データ L X を使用するときに出します。

裏ぶたを開け、遮光板ノブを指先で左に回すと遮光板が出ます。入れるときは右に止まるまで回します。



フォーカシングスクリーン〔F Sと略す〕に付属しているピンセットで、写真のようにして○印の裏側の押さえ板を→のように手前に引くとF Sが枠ごと下がります。写真のようにF Sをピンセットで取出し、ケースの溝に立てます。

交換するF Sをピンセットで枠にのせ、写真のように押し上げるとカチッと音がして固定されます。

F Sはプラスチック製です。取扱いはいじらないでください。また、清掃はブロワーでゴミを吹き払うだけにしてください。F Sをつまむときは、上写真のように専用ピンセットでF Sのつまみの部分をはさんでください。

IDMシステムのL Xは、どのフォーカシングスクリーンを使用しても、正確な露出が得られます。また、M X用のフォーカシングスクリーンもファインダーは少し暗くなりますが、正確な露出で使用できます。〔L XのものをM Xには使用できません。〕

46

フォーカシングスクリーンの種類

形 状	形式・名称・特徴	形 状	形式・名称・特徴
	SA-21、SA-23・マイクロプリズムマット SA-21は一般撮影用で、マイクロプリズムの直径は3mm、プリズム角度は8°です。 SA-23はF2.8より明るいレンズ用で、プリズム角度は12°です。明るいレンズに用いると、SA-21よりピント合わせ精度が高くなります。		SD-21・十字線マット 直径4mmの中心部に0.08mm間隔の十字線が2本入っており、顕微鏡写真、ファインダー像が暗い超接写に用います。目をわずかに左右に振って、像と十字線がずれないときにピントが合います。
	SA-26・望遠用マイクロプリズムマット 望遠レンズ用で、特に超望遠レンズに適します。プリズム角度は4°で、F8でも使用できます。		SD-11・十字線透過 全面透過で中央部はSD-21と同じです。ピント合わせはSD-21と同じです。特に暗い被写体や、顕微鏡撮影、天体写真に適しています。
	SA-32、SA-37・全面マイクロプリズム 全面透過型の極めて明るいスクリーンです。被写界深度の確認はできませんが、ファインダーが暗くなる時は特に有効です。SA-32は角眼や超広角レンズから300mmレンズ位まで、SA-37は標準レンズから超望遠レンズに適します。		SE-20・全面マット 中央の直径8mm以外はフレネルレンズが入っています。マット面にピント合わせを好む方に適します。
	SB-21・スプリットイメージマット 一般撮影用でプリズムの角度は8°です。F5.6より暗いレンズのときは、外側のマット面にピントを合わせます。		SE-25・望遠用全面マット 望遠レンズ用で、特に超望遠レンズに適します。マイクロプリズムやスプリットイメージが使えない場合に適しています。
	SC-21・スプリットマイクロマット 一般撮影用で、L Xに標準装着されています。スプリットイメージは直径2.5mm、マイクロプリズム外径は5mm、プリズム角度は8°です。		SG-20・方眼マット SE-20に6mm間隔の方眼を入れたもので、構図の決定や、特にシフトレンズ使用時に適しています。
	SC-26・望遠用スプリットマイクロマット 望遠レンズ用で、特に超望遠レンズに適します。プリズム角度は4°で、F8でも使用できます。		SI-20・スケールマット式 マット面に1mm目盛のスケールが入っていますから、撮影倍率を測ることができます。

LXフォーカシングスクリーン適合表

レンズ名称	スクリーン	SA-21	SA-23	SA-26	SA-32	SA-37	SB-21	SC-21	SC-26	SD-21	SE-20	SE-25	SG-20	SI-20
A15mmF3.5		○	▲	△	△	●	○	○	○	○	○	○	○	○
FA20mmF2.8		○	○	●	△	●	○	○	●	○	○	●	○	○
A20mmF2.8		○	○	△	△	△	○	○	△	○	○	△	○	○
FA*24mmF2.8AL (IF)		○	◎	▲	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA28mmF2.8AL		○	○	●	△	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA35mmF2.8AL		○	◎	▲	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA43mmF1.9 Limited		○	◎	▲	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
A50mmF1.2		○	◎	▲	○	▲	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA50mmF1.4		○	◎	▲	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA50mmF1.7		○	◎	▲	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA77mmF1.8 Limited		○	◎	▲	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA*85mmF1.4 (IF)		○	◎	▲	○	▲	○	○	▲	○	○	○	○	○
FA135mmF2.8		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FA*200mmF2.8ED (IF)		○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
A*200mmF2.8ED		○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
FA*300mmF2.8ED (IF)		○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
A*300mmF2.8ED (IF)		○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○
FA*300mmF4.5ED (IF)		▲	▲	○	▲	◎	▲	▲	○	△	△	◎	△	△
A*400mmF2.8ED (IF)		△	△	◎	△	◎	△	△	◎	△	△	◎	△	△
FA*400mmF5.6ED (IF)		▲	▲	○	▲	◎	▲	▲	○	△	△	◎	△	△
A400mmF5.6		▲	▲	◎	▲	◎	▲	▲	◎	△	△	◎	△	△
SMCP 500mmF4.5		▲	▲	◎	▲	◎	▲	▲	◎	△	△	◎	△	△
FA*600mmF4ED (IF)		▲	▲	◎	▲	◎	▲	▲	◎	△	△	◎	△	△
A*600mmF5.6ED (IF)		▲	▲	◎	▲	◎	▲	▲	◎	△	△	◎	△	△
レフレックス1000mmF11		▲	▲	▲	▲	◎	▲	▲	▲	△	△	◎	△	△
A*1200mmF8ED (IF)		▲	▲	▲	▲	◎	▲	▲	▲	△	△	◎	△	△
Mレフレックス2000mmF13.5		▲	▲	▲	▲	◎	▲	▲	▲	△	△	◎	△	△
FA20-35mmF4AL		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA*28-70mmF2.8AL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FA28-70mmF4AL		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA28-80mmF3.5-4.7		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA28-80mmF3.5-5.6		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA28-105mmF4-5.6		○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FA28-105mmF4-5.6 (IF)		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA28-200mmF3.8-5.6AL (IF)		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FA35-80mmF4-5.6		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
F35-80mmF4-5.6		○	▲	●	○	●	○	○	●	○	○	●	○	○
A35-80mmF4-5.6		○	▲	●	▲	●	○	○	●	○	○	●	○	○

48

レンズ名称	スクリーン	SA-21	SA-23	SA-26	SA-32	SA-37	SB-21	SC-21	SC-26	SD-21	SE-20	SE-25	SG-20	SI-20
FA70-200mmF4-5.6		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
FA*80-200mmF2.8ED (IF)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
FA80-200mmF4.7-5.6		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
F80-200mmF4.7-5.6		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
A80-200mmF4.7-5.6		○	▲	○	▲	○	○	○	○	△	△	○	△	△
FA80-320mmF4.5-5.6		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
FA100-300mmF4.5-5.6		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
FA100-300mmF4.7-5.8		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
F100-300mmF4.5-5.6		○	▲	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
FA*250-600mmF5.6ED (IF)		▲	▲	○	▲	◎	▲	▲	△	△	△	◎	△	△
レフレックス400-600mmF8-12		▲	▲	▲	△	◎	▲	▲	△	△	△	◎	△	△
Aフィッシュアイ16mmF2.8		○	○	△	○	●	○	○	○	○	○	△	○	○
Fフィッシュアイ17-28mmF3.5-4.5		○	▲	●	▲	●	○	○	●	○	○	●	○	○
FAマクロ50mmF2.8		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
FAマクロ100mmF2.8		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
FAマクロ100mmF3.5		○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
A*マクロ200mmF4ED		○	▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
FAソフト28mmF2.8		▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	◎	●	○	○
FAソフト85mmF2.8		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	◎	○	○	○
Fソフト85mmF2.8		▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	◎	○	○	○
ソフト28mmF3.5		○	▲	△	●	●	○	○	△	○	○	△	○	○

◎：特に使用に適します。

○：使用に適します。

●：ファインダー画面の周辺部がケラれます。

△：画面の周辺が多少見えにくくなります。

▲：スプリット、マイクロプリズムにカゲリを生じる、またはピント精度が低下します。

SD-11は組合せる望遠鏡や顕微鏡によって、ファインダーにケラレやミラー切れを生じることがあります。

下記条件では、ファインダーの周辺がケラれます。

・ SA-32使用時、システムファインダー[FC-1]または[FD-2]と24mm以下のレンズの組合せ。

・ SA-37に広角レンズを使用した場合。

・ SA-37使用時、システムファインダー[FC-1]または[ED-2]と150mm以下のレンズの組合せ。



ファインダーをはずすとき

ファインダーロックレバーを→の方向に押しながらファインダーを⇨の方向へ静かに引いてはずします。外しにくいときは、ファインダーを⇨と逆方向に軽く押しながら、ファインダーロックレバーを→の方向に押ししてください。

ファインダーをはずしておくときは、ボディー・ファインダーとも、ゴミが入らないよう注意してください。



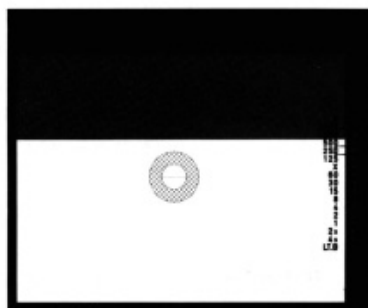
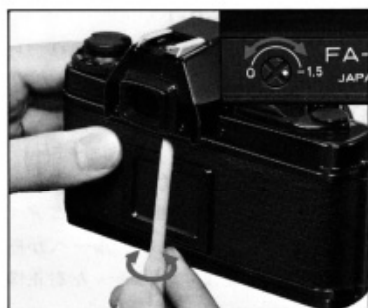
ファインダーを付けるとき

⇨のミゾを左右とも合わせ、ファインダーを差し込み⇨の方向に止まるまで押します。止まった後逆方向に引いてロックされたことを確認してください。

IDMシステムのLXは、どのファインダーを付けたときでも、正確な露出が得られ、また、ファインダー内の表示を見ることができます。

50

視度の合わせ方



視度調節装置で合わせるとき

FA-1、FA-1W、FA-2は視度調節ができます。カメラを机など安定した台の端に置きます。ファインダーロックレバーを押し、ファインダーが図のように見えるように途中までずらします。ファインダーを見ながらクロスマイクロの線がはっきり見えるように、視度調節ダイヤルを付属の視度アジャスターで回します。なお、一般の方は -1 m^{-1} 〔毎メートル〕前後が規準になります。調節後、ファインダーを元に戻し、ロックされたことを確認してください。

ファインダーFA-1・FA-2の調節範囲は、 $-1.5 \sim 0\text{ m}^{-1}$ FA-1Wは $-3 \sim +1\text{ m}^{-1}$ です。

視度調整レンズMで合わせるとき

ファインダー視度は視度調整レンズMでも合わせられます。写真のようにアクセサリ取り付け溝に入れて使用します。視度の種類は次のものがあります。 $-5, -4, -3, -2, -1, +1, +2, +3, \text{ m}^{-1}$

実際にカメラに付けて見て、目に合うことを確かめてお求めください。

① アイレベルファインダー FA-1

② アイレベルファインダー FA-1W

ホットシュー・絞り透視窓が付いた標準的なファインダーです。視度調節可能で範囲は $-1.5 \sim 0 \text{ m}^{-1}$ (FA-1)、 $-3 \sim +1 \text{ m}^{-1}$ (FA-1W)です。

倍率0.9倍 (FA-1)、0.84倍 (FA-1W)

52[幅]×36[高]×56[厚] mm 95 g

③ アイレベルファインダー FA-2

シンプルなスタイルのファインダーです。視度調節範囲は $-1.5 \sim 0 \text{ m}^{-1}$ です。

倍率0.9倍

52[幅]×36[高]×54.5[厚] mm 86 g

④ ウェストレベルファインダー FF-1

折りたたみ式のフードでルーペ付です。左右は逆像になります。

倍率1.0倍

52[幅]×31.5[高]×50[厚] mm 60 g

⑤ ウェストレベルマグニファインダー FE-1

マグニファイヤー付のウェストレベルファインダーです。アイピースの口径が大きく、全視野を楽に観察できます。視度は $-5 \sim +4 \text{ m}^{-1}$ 、左右は逆像になります。

倍率1.35倍

52[幅]×55[高]×50[厚] mm 150 g

⑥ システムファインダーベース FB-1

3種類のアイピースがバヨネットマウントで取り付けられるシステムファインダー用のベースです。

52[幅]×40.5[高]×78[厚] mm 130 g

⑦ アクションアイピース FC-1

FB-1に取りつけて、システムファインダーアクションデュアルになります。ルーペ部を回転させるとアイレベルとウェストレベル両方に使えます。ルーペから60mm目を離しても全視野が見えます。上下・左右正像。

倍率0.55倍

52[幅]×57[高]×91.5[厚] mm 260g (FB-1付アイレベル)

⑧ マグニアイピース FD-1

FB-1に取りつけてシステムファインダー45となります。光軸に対し45°で全視野が見えます。視度は $-4.5 \sim +3.5 \text{ m}^{-1}$ 調節可能。上下・左右正像。

倍率0.95倍

52[幅]×64[高]×105[厚] mm 270g (FB-1付)

⑨ スタンダードアイピース FD-2

FB-1に取りつけてシステムファインダー45Sとなります。視度調節と絞り透視ができない他は、FD-1と同じです。

視度 -1 m^{-1} 倍率0.84倍

52[幅]×45[高]×86[厚] mm 180g (FB-1付)

52



FA-1・FA-2の視度調節範囲を変更されるときは、各サービスセンターで取扱っております[有料]。

調節範囲は次の種類があります。

$-3 \sim -1.5 \text{ m}^{-1}$ 、 $0 \sim +1.5 \text{ m}^{-1}$ 、 $+1.5 \sim +3 \text{ m}^{-1}$

専用アクセサリ・ダイヤルデータLX・データLX

ダイヤルデータLX

画面内に撮影年月日や記号を写し込む装置で、LXの裏ぶたと交換して使用します。ワインダーやモータードライブの連続撮影にも連動します。

データの種類

年	月	日
絞り目盛	シャッタースピード	[0 ~ 36]
	アルファベット [A ~ M · X]	

画面には、日、月、年の順に写ります。



LX+ダイヤルデータLX

データLX

画面内にカレンダー付の時計をそのまま写し込む装置で、LXの裏ぶたと交換して使用します。

時計は時・分・秒の針と日付けがあり、中央部にはメモを記入できます。また、メモだけを写し込むデータ記入板も付属しています。



LX+データLX

54

専用アクセサリ・ワインダーLX

アクセサリのワインダーLXは、1コマ撮影のほか毎秒約2コマの連続撮影、モーター巻戻しができます。電源は単3型電池を4本使用します。



LX+ワインダーLX

55

専用アクセサリ・モータードライブLX

アクセサリのモータードライブLXは、1コマ撮影のほか毎秒約5コマまでの連続撮影[コマ速度可変]、モーター巻戻しなどができます。

また、長尺マガジンなどモータードライブシステムも用意されております。



LX+モータードライブLX+Ni-CdバッテリーバックLX



LX+モータードライブLX
+バッテリーグリップM

56



LX+長尺マガジンLX



LX+モータードライブLX+Ni-CdバッテリーバックLX+長尺マガジンLX

(長尺マガジンLXはモータードライブLXなしでも使用可能)

57



①ボディトップキャップ

ボディから各種ファインダーを取りはずしたときに使用するキャップです。ボディのみでお求めの場合は付属していますが、標準レンズ・FA-1 付のときは付属しませんから、別にお求めください。

②ファインダーボトムキャップ

各種ファインダーを取りはずしたとき、ファインダーの下部に取りつけるキャップです。

③アイピースマウントキャップ

システムファインダー用の各種アイピースのマウントに使用するキャップです。

④ベースマウントキャップ

システムファインダー FB-1 から各種アイピースを取りはずしたとき、FB-1 に使用するキャップです。

58

ねじマウントのタクマーレンズの使い方



1. マークを合わせてボディマウントにはめ込みます。



2. ボールペンの先などで、右へ止まるまで(65°)回すとロックされます。これでねじマウントのレンズが使えます。



3. アダプターをはずすときはボールペンの先などでバネを内側に押してマウントを左に止まるまで回し、取出します。

従来のタクマーねじマウントレンズはマウントアダプター K〔別売〕で L X に装着できますが、次の条件があります。

- 1、距離目盛はそのまま使用できます〔無限大まで撮影ができます〕
- 2、自動絞りは作動しません〔方式が異なるため〕
- 3、測光は絞り込み測光で行います。

型式	TTL自動露出式35mm一眼レフレックスカメラ
使用フィルム	35mmフィルム [J135または135バトロネ入り]
画面サイズ	24mm×36mm
レンズマウント	ペンタックスKマウント
シャッター	チタン幕 フォーカルプレーンシャッター オート 電子式 $\frac{1}{2000}$ ～125秒 [無段階] [常温常湿] マニュアル 機械式 $\frac{1}{2000}$ ～X($\frac{1}{5}$)・B 電子式 $\frac{1}{60}$ ～4秒
シンクロ	FP, Xソケット [専用ストロボ接点付]
ホットシュー	アイレベルファインダーFA-1、アイレベルファインダーFA-1Wに有り
セルフタイマー	機械式 約4～約10秒、チャージ後の解除可能 [始動はシャッターボタン]
ファインダー	ファインダーおよびフォーカシングスクリーン交換式、 視野率: 縦98%・横95%、倍率: 0.9倍 [ファインダーFA-1、レンズ50mm・ ∞]
ファインダー内表示	シャッタースピード $\frac{1}{2000}$ ～ $\frac{1}{60}$ は緑LED、 $\frac{1}{5}$ ～4秒は黄LED、 A [オーバー]・LT [長時間]・ストロボ充電は赤LED シャッタースピード指針、露出補正警告マーク、 絞り表示窓 [表示付交換ファインダーによる]
ミラー	スイングバック式多層コート大型クイックリターンミラー、ミラーアップ装置付、 測光ミラー付
フィルム入れ	マジックニードル式クイックシュアローディング
巻上げ	レバー式120°、予備角25°、分割巻上げ可能、巻上げ表示付 モータードライブLX・ワインダーLX取り付け可能
フィルムカウンター	自動復元順算式、巻戻しに連動

60

巻戻し	クランク式、巻戻しボタン自動復元 モータードライブLX・ワインダーLXによる巻戻し可能
多重露出	巻戻しボタンで多重露出機構切換え
露出計	IDMシステム、TTL中央重点全面測光、フィルム感度目盛ASA6～3200、 絞り込み・ミラーアップ時も自動露出可能、受光素子・SPD
測光範囲	マニュアル測光範囲 EV1～EV19 [F1.4レンズ付、ASA(ISO)100] 自動露出測光範囲 ASA(ISO)100、F1.2・125秒～F22・ $\frac{1}{2000}$ 秒 [EV -6.5～EV20] [常温・常湿]
露出計スイッチ	シャッターボタンまたは測光ボタンを押すとON、約25秒後タイマースイッチでOFF
電源	JIS LR44形アルカリマンガン電池、またはSR44形銀電池[G13]を2個使用
電池消耗警告	電圧低下により、表示用LEDが点滅、さらに低下すると消灯。 別にシャッターもストップする。 [オート、マニュアル電子式の場合]
露出補正	$\frac{1}{4}$ ×、 $\frac{1}{2}$ ×、1×、2×、4×、 $\frac{1}{3}$ ステップダイヤル式、1×でダイヤルロック付、 補正警告ファインダー内表示
裏ぶた	蝶番式、メモホルダー付、着脱可能、ダイヤルデータLX、データLX、 長尺マガジンLX取り付け可能
大きさ・重量	144.5[幅]×90.5[高]×50[厚]mm 570g[FA-1付ボディ]
付属品	ファスナーストラップLX、三脚用補助板、視度アジャスター、レンズキャップ、 シリコンクロス。 [ボディのみ出荷の場合はボディトップキャップ]

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
- 防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
- 強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。
- ミラーやフォーカシングスクリーンはキズがつきやすいため、この部分は特に手を触れないでください。
- シャッター幕には触れないでください。
- カメラは分解しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー窓のホコリはブローで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。

- 高性能を保つため、1～2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- カメラの使用温度範囲は-20℃～50℃です。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。
- L Xの接合部は特殊シール材で密封に近い状態にしていますが、水滴などが付いたまま、各部の着脱・開閉を行なうことは避けてください。
- ボタンやレバー類のところに水滴がついたまま何度か動かすと、すきまに溜っている水が中に入りやすくなりますからご注意ください。

アフターサービスについて

- 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリが展示され、お手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
 - 他社製品（レンズ・アクセサリ等）との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。
1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店が使用説明書に記載されている最寄りの当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口へ直接お持ちください。修理品ご送付の場合は、化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかりと梱包してお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただくと原因分析に役立ちます。
 2. 保証期間中〔ご購入後1年間〕は、保証書〔販売店印および購入年月日が記入されているもの〕をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
 3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
 - 使用上の誤り〔使用説明書記載以外の誤操作等〕により生じた故障。
 - 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解による故障。
 - 火災・天災・地震等による故障。
 - 保管上の不備〔高温多湿の場所、防虫剤の入った場所での保管等〕や手入れの不備〔泥・砂・ホコリ・水かぶり・ショック等〕による故障。
 - 保証書の添付のない場合。
 - 販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
 4. 保証期間以後の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
 5. 製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能な場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
 6. 海外旅行をされる場合国際保証書をお持ちください。国際保証書は、当社サービス窓口でお持ちの保証書と交換に発行しております。〔保証期間中のみ有効〕



ペンタックスフォーラム
(ショールーム・写真展・修理受付)
☎03(3348)2941℥
〒163-0401
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル1階
(私書箱240号)



仙台サービスセンター
☎022(371)6663℥
〒981-3133
仙台市泉区泉中央1-7-1
千代田生命泉中央ビル5階



東京サービスセンター
☎03(3571)5621℥
〒104-0081
東京都中央区銀座西8-10
(土橋交差点交番並び)



横浜サービスセンター
☎045(232)5281℥
〒231-0047
横浜市中区羽衣町2-7-10
日本生命関内ビル8階



札幌サービスセンター
☎011(612)3231℥
〒060-0010
札幌市中央区
北10条西18-36
ペンタックス札幌ビル4階



名古屋サービスセンター
☎052(962)5331℥
〒461-0001
名古屋市中区泉1-19-8

■営業時間：●ペンタックスフォーラム
午前10時30分～午後6時30分

●各サービスセンター、お客様相談室
午前9時～午後5時(土・日・祝日休業)



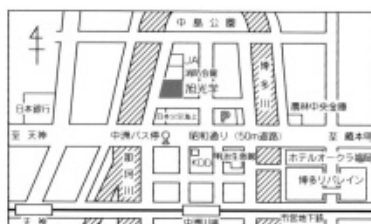
大阪サービスセンター
☎06(6271)7996℥
〒542-0081
大阪市中央区南船場1-17-9
パールビル2階



お客様相談室
☎03(3572)6479
〒104-0081
東京都中央区銀座西8-10
(土橋交差点交番並び)



広島サービスセンター
☎082(234)5681℥
〒733-0035
広島市西区南観音3-5-2
空港通りビル6階



福岡サービスセンター
☎092(281)6868℥
〒810-0802
福岡市博多区中洲中島町3-8
パールビル1階



旭光学工業株式会社

〒174-8639 東京都板橋区前野町2-36-9

ペンタックス販売株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。

お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1

三宅坂ビル 3階 ☎03 (3580) 0336